

想像力会議TM

三菱地所(株)取締役社長
木村 恵司

三菱地所ホーム(株)
小林 剛

(株)三菱地所設計
新田 佳代

三菱地所ビルマネジメント(株)
月岡 早苗

三菱地所藤和コミュニティ(株)
山崎 一乗

三菱地所アジア社
服部 豪

(株)ロイヤルパーク汐留タワー
諸星 芽生

三菱地所リアルエステートサービス(株)
中井 啓

木村「みなさんどうも、今日もよろしく。さて今日の『想像力会議』は、ちょっと想像すれば見えてくるような未来じゃなく、思い切つて気が遠くなるような、夢のような未来を想像してみようと思ひます」

新田「おお。でも難しいお題ですね、どう手をついたらよいのやら」

木村「すつとんぎような想像でもかまいませんから、遠慮せずに誰からでも」

小林「では、真面目な話、僕はいざい空中都市を実現したいと思うんです」

服部「いきなり来ましたね(笑)」

小林「いや、建物を建てるとなると、僕らが先ず考えるのは、この地面には何を建てよう、じゃないですか。でも、本来僕らの仕事っていうのは理想的な空間を提供するということであつて、地面に縛られる必要はないはずでしょ」

山崎「なるほどね」

小林「空中都市は今まで数々の小説や映画の舞台になってきた人類の夢の象徴だし、絶対につくられるべき。それを、いつか誰かが作るでしょ、じゃないかと思ふんですよね、せつかくこの仕事してるのに」

月岡「つくることの第一歩って、まず、つくれると信じてることだもんね」

小林「そうそう、まずは信じてることから始めないと」

(10分経過)

新田「ビルが木と同じ働きをしたりするといいですよね。光合成とかするの。ビルが」

月岡「環境をよくするビルは、実現したいね。できそうじゃない？」

服部「エネルギーを自分でつくりだしちゃうオフィスビルとか。自給自足ビル」

中井「なんか、いつのまにか生まれるエネルギーだといひですよね。たとえば今は活用してないけど、人が働いたり、遊んだりしているエネルギーをリサイクルすることって、できないのかなあ」

山崎「仕事中の雑談とか笑い声までエネルギーに変換しちゃう、みたいな」

服部「このビルの電力は雑談エネルギーを利用しています、とかね(笑)」

木村「あんまり雑談はつかりされても困っちゃうんだけどね(笑)」

(50分経過)

中井「無重力の街っていうのはつくりませんか」

山崎「できそうですよ。今でもカプセルの中なら無重力にはできません」

諸星「空を飛ぶ道具とか無くてもいいんです。誰でも飛べるんだ」

月岡「でも無重力だと、飛びたくない人も飛びたくない人、その間に飛べないんじゃないですか」

中井「飛びたくない人は、その間に飛べないんじゃないですか」

月岡「なんなのよ、その街のこと」

(75分経過)

小林「だからさ、翻訳システムを丸ごと埋め込んだじゃうイマジン」

服部「障壁が無い街つてのをつくりたい、これは日本が変わるよ」

諸星「日本にいながらにして想像力がりますよね、今よりずっと」

新田「みんな語学勉強しなくちゃならない」

服部「いや、あくまでもそれは補助的なものになるから語学は必要なんじゃない？」

新田「えー」

月岡「えー、とか言わない(笑)」

木村「あのー、盛り上がりすぎるところ非常に申し上げにくいんだけど」

小林「は、はい」

木村「夜も更けてきたので今日のところはそろそろ、お開きに・・・」

全員「えー~~~~」

木村「いやいや、明日もこの続きをやりましょう。とにかく、街を歩いている人が元気で、笑顔で、そういう街を想像し続けましょう。今日はみなさん、お疲れさまでした！」

全員「お疲れさまでした！」

人を、想う力。街を、想う力。三菱地所グループ